

加 佐

学校だより 1月号

令和2年1月7日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<http://kasa.maizuru.ed.jp/>



謹 賀 新 年



よき新年をお迎えのこととお喜び申しあげます。今年は加佐中学校開校10周年を迎えます。また、平成28年度に市内で先行実施された加佐中学校区小中一貫教育は第2期目に入り、ますます充実します。本年もどうぞよろしくお願い申しあげます。



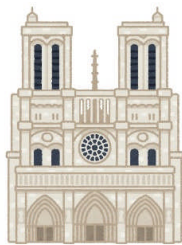
昨年末に本校生徒会本部役員改選に伴う立会演説会を開催しました。積極的な学校づくりを目指す各候補者の意気込みが伝わる大変素晴らしい内容でした。立候補者は「質の高い学力を目指そう」「生徒会として労を惜しまずに取り組む」と力強く訴え、体育館で集中して聴いていた全校生徒と先生たちの琴線を大きく揺さぶりました。

奇しくも京都府では従来から、目指すべき学力の姿として「質の高い学力」をキーワードに掲げています。また、SDGs目標4には「質の高い教育をみんなに～」と示されています。令和2年は、加佐中のコラボ学習＝「主体的・対話的で深い学び」によって質の高い学力を学校一丸となって支えるために、生徒会と全校生徒がタッグを組んで、生徒会主導による本校ならではの「新システム」が開発されるかもしれません。実現すれば一段と魅力的な「授業が楽しい学校」づくりにつながることは間違いありません。春からとても縁起の良いお話です。

しあわせ ☆ SIWASE

「幸せ」についての話題を紹介します。ひと昔前のことですが、ハーバード大学で数十年間、膨大な研究費を投じて、人にとっての「幸せの定義」が明らかになった。という記事を目にしました。記事では「幸せ」は、やはり富や名誉ではなく「あたたかな人間関係」といったような、ごく当たり前の納得のいく結論だったと記憶しています。確かに、その土台がしっかりとしていれば、家庭でも、学級でも、職場でも、人生の大抵のことは、知恵を出し合い手を取り合って乗り越える勇気がわいてきます。

続いてイソップの「三人のレンガ職人」を紹介します。イソップは、この寓話で3人の職人の言葉を借りて、働くことの意義や、生きる喜びについて我々に問いかけています。お話を振り返ってみましょう。



ある町で旅人が職人に会い、何をしているのか尋ねます。一人目の職人は「親方に言われてレンガを積んでいるんだ。」と、つまらなそうに答えたそうです。次の職人は、旅人の問いに「壁をつくっているのさ。この仕事で家族を養っているんだ。感謝しないと。」と、仕事に励みながら答えました。そして三人目は、「いずれ大聖堂が出来上がるんだ。そしてここでたくさんの人々が祈りを捧げ、祝福されるんだよ。」と、自分が今まさに、大切な事業にかかわっていることの喜びや、何十年も先の町の人々の幸せを嬉しそうに語りました。

旅人から見ると同じようにレンガを積む作業をしても、「こうしたい。」という明確な目的意識や「みんなの役に立ちたい」「頼りにされている」などの、職人が自ら見出した価値が、誇りや使命感・心の支えとなり、意欲を高めているのがわかります。

本校でも、地域に貢献する「自立した社会人の育成」を目指して励みます。

舞鶴市立加佐中学校 校長 福本 浩介 教職員一同